

『物流ニッポン』2025年3月14日に 元気ジャパン(株)様の当社サービスを利用活用した 事故削減の取り組みが掲載されました！

75%の
事故削減

“ 2022年は80件だった事故件数が
23年度には半分の40件に減少した。
24年度は集計中だが、11月末時点で
12件で「通年で半減（20件を下回
る）する見込みだ

”

2025年（令和7年）3月14日（金曜日）

【第3種郵便物認可】

VR教育機器で事故減

1回5分 隙間時間に受講可

安全管理業務を効率化

元気ジャパン（木下久雄社長、山口市）は、WacWac（佐々木章太社長、東京都練馬区）が開発したドライバー向けのVR（仮想現実）安全教育機器「らくらく監査システム」を全営業所に導入し、大幅な事故削減と安全管理業務の効率化を実現している。効果を実感した木下社長は、トラック協会や損害賠償会社、リース会社などに紹介し、普及に協力。他の事業者のロコミなどもあり、山口件の導入企業（運送会社のみ）は3月上旬までに36社79営業所に入っている。（江藤和博）

元気ジャパン

専用ゴーグルを装着した。また、運転席からだけ360度の視点で事故やヒドでなく、側面から見るとヤリハットを疑似体験で切り替えることが可能。VR機器でリアルで臨場感のある映像が特徴。トラック版とフォークリ他のVR機器は場面によってバージョンがあり、トラック版でCG（コンピュータ）は国土交通省が規定するドライックスを使用してドライバー指導・監査指針12いるが、らくらく監査システムは、受講者全員が全シーンを実際に撮る教育記録は自動的のシス影。トラックが右折する際、映像が自動的、管理者の行をひく場面では、プロ 元気ジャパンでは、トラのスタントマンを起用し、トラック版を1年半前に山口、

福岡、愛知など全営業所に1セットずつ（山口営業所は2セット）配備し、全ドライバーが月1回受講。2022年度は80件だった事故件数（もらい事故、軽微な事故を含む）が、23年度は半分の40件に減少した。24年度は集計中だが、11月末時点で12件で、「通年で半減（20件を下回る）する見込みだ。木下氏は最初は半信半疑だったが、自ら体験して

導入を決めた。自動車免許更新の際には運転免許センターで事故体験のDVDを視聴するが、時間の経過とともに忘れてしまう。VR教材を体験して強く思うのは、「脳に長く残る」という点。月1回受講すること効果が続く。所要時間は1回5分、点呼や待機の隙間時間を利用できた



真面目に聴いているか分からない。また、土曜日は休日手当が発生するほか、管理者には資料作成などの負担が掛かる。VR教材を導入することで、こうした手間や時間、コストを削減できた。費用は月額料金制で登録20人まで5万5千円、21人以上は1人5500円が加算

専用ゴーグルを手につく木下社長

される（入荷金は当面免除）が、事故が削減すればトータルでコストダウンが可能となる。元気ジャパンは、求職者向けの合同会社説明会で「らくらく監査システム」を展示し、体験会を実施。また、所属する山口県トラック協会の山口支部（水津典義支部長）に提案し、24年12月のセミナーの講師をWacWacの担当者に勤めてもらった。これをきっかけに支部でも導入企業が増えていくという。木下氏は「会社説明会でデモンストラーションを行えば、『安全教育に熱心な会社』だと印象付けられる。人材確保の効果が期待できる。物流業界はこうした最新鋭の機器を有効的に活用し、業界を上げて事故を撲滅していくことが必要だと強調する。

出展：株式会社物流ニッポン新聞社